2027年3月期第2四半期
決算説明会

NANOホールディングス株式会社

2026年11月13日(金)

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

INDEX

01 2027年3月期第2四半期
決算概要

02 投資事業の進捗と成長戦略

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

01 2027年3月期第2四半期 決算概要

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

NANOホールディングス 組織概要

NANOホールディングス株式会社

NANO MRNA
世界最先端の
核酸創薬プラットフォーム

- PrimRNA for a brighter tomorrow
- Luna RD co., ltd.

NBI Nano Bridge Investment
日本の優れた技術を持つ
企業の価値を世界へつなぐ

- NANO Bridge I
- NATIAS

NANO HOLDINGS US
日本発の技術と
世界の資本をつなぐ

NANO MEDIA
企業価値を高める
コンテンツ発信

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期第2四半期 連結損益計算書

（単位：百万円）	2026年3月期 第2四半期（中間）実績 （連結）	2027年3月期 第2四半期（中間）実績 （連結）	前年同期比
売上高	41	77	36
売上原価、販売費及び一般管理費	440	775	335
内：研究開発費	213	248	35
営業損失	△ 399	△ 697	△ 298
営業外損益（ネット）	14	△ 2	△ 17
経常損失	△ 384	△ 700	△ 315
親会社に帰属する中間純損失	△ 440	△ 767	△ 327

売上高増加の主な要因：コムレクスの販売に伴う利益分配収入増加

販管費増加の主な要因：投資事業体制整備及び人員増等による増加

特別損失の計上：投資有価証券評価損54百万円の計上

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期第2四半期 連結貸借対照表

（単位：百万円）	前連結会計年度 （2026年3月31日）	当中間 連結会計年度 （2026年9月30日）	前期末比	主な増減要因等
現金及び預金	4,910	3,411	△ 1,499	投資及び社債償還等による減少
その他流動資産	288	291	2	
固定資産	707	1,415	707	NATIASへの投資等による有価証券の増加
資産合計	5,906	5,117	△ 788	
社債	1,600	1,000	△ 600	社債償還による減少
その他負債	740	759	19	
負債合計	2,340	1,759	△ 580	
資本金及び資本剰余金	7,338	7,895	556	新株予約権行使及びRS発行による増加
利益剰余金	△ 3,930	△ 4,698	△ 767	当期純損失計上による減少
その他有価証券評価差額	130	76	△ 54	
新株予約権	27	24	△ 3	
非支配株主持分	0	60	60	Luna RD取得による社外持分増加
純資産合計	3,565	3,357	△ 207	
負債･純資産合計	5,906	5,117	△ 788	

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

2027年3月期第2四半期 連結キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）	2026年3月期 第2四半期（中間）実績 （連結）	2027年3月期 第2四半期（中間）実績 （連結）	前年同期比
連結営業キャッシュフロー	△ 312	△ 528	△ 216
連結投資キャッシュフロー	685	△ 713	△ 1,399
連結財務キャッシュフロー	△ 609	△ 251	358
換算差額	3	△ 5	△ 9
期首残高	1,197	4,910	3,713
期末残高	964	3,411	2,446

＜キャッシュフロー概況＞
営業キャッシュフロー：当期純損失等によるもの
投資活動キャッシュフロー：投資実行による投資有価証券の取得等によるもの
財務活動キャッシュフロー：新株予約権の行使による収入、社債の償還による支出等によるもの

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

02 投資事業の進捗と成長戦略

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

IRトピックス　2026年4月～の主な進捗

HD体制への移行から、投資実行・技術基盤の拡充へ

9/17

OEPと戦略的提携

Orient EuroPharma Co., Ltd.
台湾 TPEx 4120

OEP投資先のバリューアップで連携
約3.1億円の第3者割当増資を決議

8/31

TUG1 ASO
膠芽腫 Phase Ib試験開始

Phase Iで腫瘍縮小を伴う症例確認
用量・投与スケジュールを検討

7/31

NATiASへ出資

NANO Bridge Iによる投資
核酸製造基盤技術の取り込み

4/24

Luna RDを買収

新しいDDS技術「LNP」を
NANO MRNAへ取り込む

4/10

BIRD INITIATIVEと
戦略的提携

4/1

NANO MRNAへ
創薬事業承継

HD体制へ移行

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

投資事業の進捗と案件ソーシング状況

投資実行1件、次の投資候補1件でターム合意

検討案件（累計）
167 件

詳細検討案件
15 件

投資実行
1 件

NATiASへの投資・経営人材派遣を実行

2026年10月20日現在

分野	検討段階	投資対象・手法
核酸CDMO	投資実行	未上場
医療データ	ターム合意	未上場
抗体医薬	NDA	上場PIPEs
創薬（核酸・低分子）	NDA	パイプライン
バイオ・ヘルスケア	NDA	未上場
創薬（低分子）	NDA	パイプライン
バイオ・ヘルスケア	NDA	未上場
抗体医薬	NDA	パイプライン
創薬（低分子）	NDA	上場PIPEs
創薬（低分子）	NDA	パイプライン
創薬（ペプチド医薬）	NDA	パイプライン
創薬（低分子）	NDA	上場PIPEs
核酸医薬	NDA	パイプライン
再生医療／細胞医薬	NDA	パイプライン
創薬（低分子）	NDA	パイプライン

NDA 13件 ／ ターム合意 1件 ／投資実行 1件

内、早期投資案件が進捗中

ターム合意	次の投資候補：未上場企業
交渉進展	製薬企業の創薬パイプライン VCと協議中
協議進行	上場企業と交渉中

年間投資目標 3件 に向けて案件の具体化が進む

検討案件の集計期間：2025年10月～2026年10月

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

米国VCとのNewCo設立構想

目指す連携の仕組み

01 NANOが発掘
独自ネットワークから
パイプライン等を発掘

→

02 米国VCと協議
米国VCと発掘案件を協議
Nano Holdings USを活用

→

03 事業性を共同評価
市場性・買い手候補・
投資条件を共同で検討

→

04 NewCoで事業化
NewCoを共同設立
事業化・EXITを目指す

NANOと海外VCとの関係

Nano Holdings USを通じた米国VCネットワーク

接点のある米国VC　**26 社**

特に関係が強固な代表的な米国VC3社

OrbiMed
AUM 約200億ドル

世界最大級のヘルスケア投資
プラットフォーム
未上場から上場企業まで投資

Canaan Partners
AUM 約68億ドル

ヘルスケア・テクノロジー領域の
老舗VC

Curie.Bio
AUM 約9億ドル

創薬特化のcompany creation
プラットフォーム
資金と創薬の実務支援を
一体で提供

NANOが発掘するパイプライン等を、米国VCと共同でNewCoとして事業化

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

投資案件の具体化とファンドレイズが並行して進展

投資実績をショーケースとして、ファンドレイズ活動をさらに加速

出資候補との協議を推進

Strategic Investors｜戦略投資家

■ 大手事業会社

化学、部品、素材、製薬など
事業・技術の親和性を踏まえた出資協議

Financial Investors｜金融投資家

■ 金融機関

銀行や保険会社など
運用機会としての出資協議

NANO Bridge I
ファンド概要

募集目標額　150億円

運用期限　2032年12月31日

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

モデルナの株価推移(月次)と売上高・純利益推移

株価：月次終値ベース（2019年1月～2026年11月9日）／売上高・純利益：年間実績（2019年～2025年）

株価推移 (月次終値)



売上高・純利益推移 (年間)



注：株価は月次終値ベース。最高値は取引時間中高値および終値ベース高値を別記。売上高・純利益はModernaの年次開示（GAAPベース）に基づく。

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

ModernaのPhase 3成功。個別化医療が「現実」に。

Phase 3成功

この成功が、医薬品産業のパラダイムシフトの始まりとなる。

2026年10月22日発表|第III相 INTerpath-001（切除後メラノーマ）

主要評価項目 RFS

42%低減

再発または死亡のリスク
HR 0.58|p<0.001

重要な副次評価項目 DMFS

38%低減

遠隔転移または死亡のリスク
HR 0.62|p=0.002

個別化mRNAがんワクチン+ペムブロリズマブ併用群を、ペムブロリズマブ単独群と比較
RFS・DMFSはハザード比に基づく相対リスク低減。

企業	主な対象がん種	開発段階・状況
Moderna / Merck	メラノーマ	Phase 3 成功
Moderna / Merck	非小細胞肺がん（NSCLC）	Phase 3
Moderna / Merck	腎細胞がん	Phase 2
Moderna / Merck	膀胱がん	Phase 2
BioNTech / Genentech	膵管腺がん（PDAC）	Phase 2

※各開発品は開発中・未承認を含む。

世界の医薬品市場

約250兆円 2024年予測

世界の抗がん剤市場

約45兆円 2025年予測

出典：IQVIA「Quarterly Pharmaceutical Market Outlook」（2023年11月）、IQVIA Institute「Global Oncology Trends 2025」（2025年5月）
※1米ドル=150円で換算した概数。

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

個別化医療のワークフローと現状の課題

製造が、最大のボトルネック。

少数患者向けの高額な治療から、より多くの患者に届けられる製造体制が求められる。

処方設計・臨床データ取得までは実現しつつある。

ボトルネック

STEP 01	STEP 02	STEP 03	STEP 04	STEP 05
患者検体	医薬品設計	臨床開発	製造	患者へ
採取・解析	患者ごとの 配列・処方設計	安全性・有効性	個別化製造	投与

実証されたプロセス

個別化抗原の同定・個別設計
メラノーマでは臨床試験が進展。
肺がんなど、他のがん種でも研究開発が進む。

実現が見えた今、
次は製造の課題へ

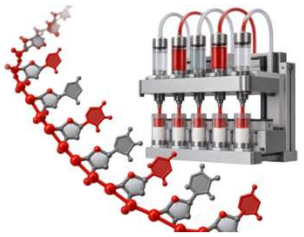
製造における課題

少量・多品種への対応
高コスト
品質のばらつき
製造スピード

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

NATiASの化学合成技術が個別化医療の製造を変える

NATiASの技術は、既存製法が抱える個別化医療向け製造の課題を解決する次世代技術



既存のIVT法は、大量生産型の医薬品製造に適した製法。
個別化医療に求められる「少量・多品種・短期間での製造」には不向き

既存のIVT法：酵素反応

大量生産を前提とする既存医薬品向けに確立された製法

- ◆ 1種類の医薬品を大量生産するのに適している
- ◆ 長鎖核酸の合成が可能
- ◆ 大規模生産における実績がある

個別化医療には、
「少量・多品種」の医薬品を
高品質・短期間・低コストで
製造できる

新しい製造法が必須

NATiAS 技術：化学合成

個別化医療の製造を実現する基盤技術

- ● 少量・多品種を短期間で製造（数日程度）
- ● オーダーメードの個別設計に対応
- ● 高純度・均一な品質
- ● 製造コストの低減
- ● 自動化・連続生産が可能

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

日本発の技術が、個別化医療の製造を変える

大量生産の発想から、患者一人ひとりに対応する製造へ

個別化医療の普及を支える製造技術の革新を目指す

高品質　×　短期間　×　少量・多品種　×　低コスト化

既存のIVT方式

酵素反応を用いるIVT方式
設備・工程・品質管理の効率化が課題



大型の製造施設で大量生産

NATiAS

化学合成による高純度・均一な品質
少量・多品種への適応、自動化を目指す



コンパクトな製造システム（構想）が可能
患者のそばで製造

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

NATiASが、世界の核酸製造基盤へ

政府・規制当局も巻き込み、装置開発と制度改革を一体で推進

産官学の連携で、個別化医療に対応する製造・品質管理・承認の仕組みを変えていく。



NATiASを中心とした コンソーシアムの5つの強み

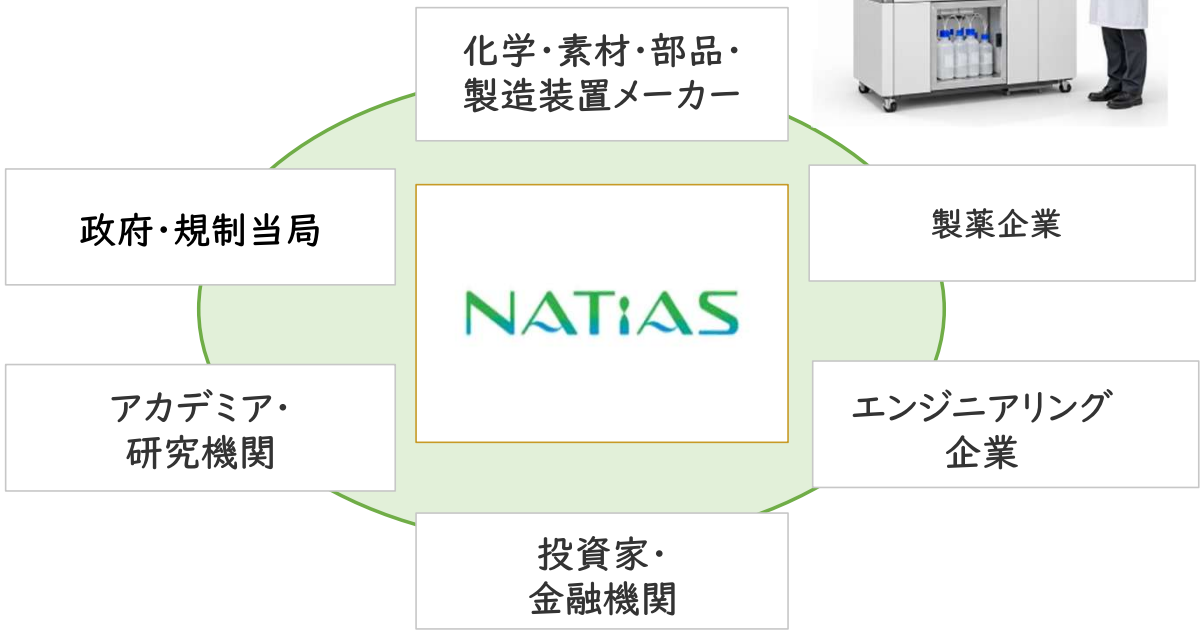
01 化学合成（酵素を使わない）

02 高純度・均一品質

03 迅速な製造（数日～数週間）

04 多品種・少量製造に対応

05 自動化



独自の化学合成技術を、次世代の製造基盤へ

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

NATiASは、NANOのフラッグシップ投資先

AI時代のGPUのように、NATiASの技術を個別化医療時代の技術基盤へ

01 巨大な成長市場
個別化医療の拡大で
核酸製造技術への需要増に期待

02 世界に通用する独自技術
NATiAS技術の革新性と
国内外の採用・連携実績

03 戦略的な買収需要
製薬・製造関連企業にとって
重要な技術基盤となる可能性

04 企業価値を高める実行力
NANOの経営人材と
政府・産業界・海外ネットワーク

成長市場と将来の買い手を見据え、事業価値を高めてM&A等によるEXITを目指す

投資実行 | 3~5年程度（想定） | EXIT

技術の世界展開 → NATiASの企業価値向上 → NANOの投資回収

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

NATiASの事業化を支えるNANOの人材とネットワーク

製造事業の立ち上げから、顧客開拓・海外展開まで担う人材を投入

資金・経営体制　技術・製造　海外展開・回収

経営に直接参画

富所 伸広
成長戦略・資本政策・売却戦略

青木 信行
事業開発・海外事業の運営

小坂 真
内部管理・リスク管理・監査

経営・技術への助言

Jack Yamamori
企業経営・M&A・海外展開

Michael Houston
製造方法・生産規模・品質管理

Neil Gibson
製薬提携・売却候補先との接点

研究開発・技術評価

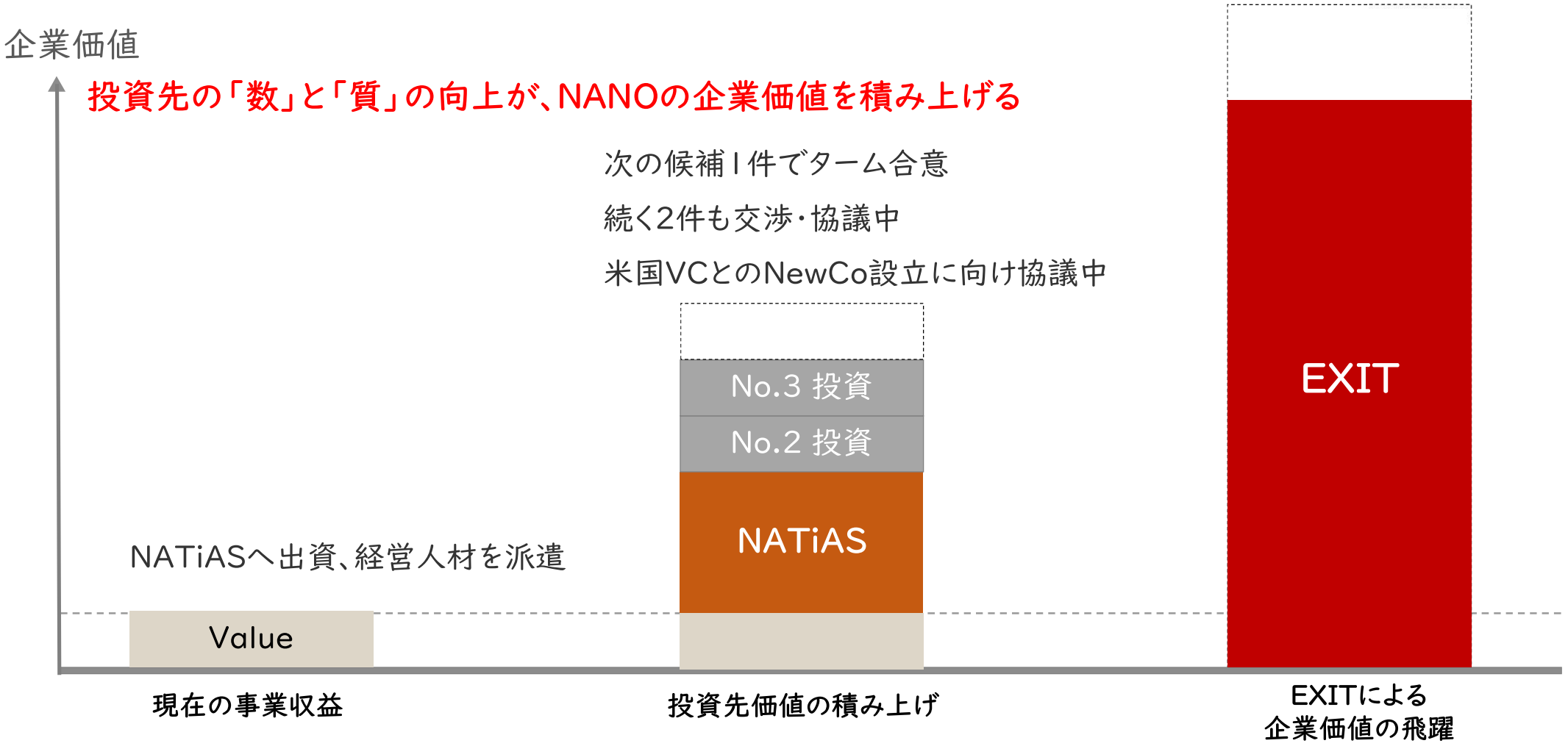
NANO MRNA

秋永 士朗
代表取締役社長

研究開発・技術評価等を支援

© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

投資先の価値を積み上げ、EXITで企業価値を飛躍的に高める



© 2026 Nano Holdings, Inc. All Rights Reserved.

ありがとうございました

NANO HOLDINGS

本資料には、当社の事業及び展望に関する将来見通しが含まれておりますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

NANOホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部 03-6432-0020